

2013年4月1日

入社式社長挨拶について

第一生命保険株式会社（社長 渡邊 光一郎）は、2013年度「入社式」にあたり新入職員に向けて、別紙の挨拶をする予定ですので、お知らせ致します。

なお、挨拶は4月1日（月）午前11時00分より、よみうりホール（有楽町ビ
ックカメラ7F）で行われます。

2013年度新入職員	
グローバル職	104名
エリア職	45名
総合営業職	432名
機関経営職	45名
計	626名

「順風」を自ら吹かせていこう ～成長戦略の実現は若者の自らの手で～

新入社員の皆さん、ご入社おめでとうございます。皆さんを心から歓迎します。

第一生命は1902年に創業し、昨年度の110周年を経て、本日より111周年を迎えます。皆さんは111周年という「1」並びの年に、新たな第一歩を踏み出されたということになります。この「1」という数字は、「第一生命」の社名を示し、経営理念「お客さま第一主義」やグループビジョン「いちばん、人を考える会社になる。」を象徴する特別な数字です。この特別な意味を持つ111周年に入社された皆さんは、これから一番の輝きを放つ人財へと成長してくれるものと大いに期待しています。

また、本日は今後3年間にわたる新たな中期経営計画「Action D」をスタートする日でもあります。「Action」には、理念やビジョンを実践躬行(※)することで、お客さま、株主、そして社会へ向けて、私たちの本物度合い、本気度合いを示していく、という思いを込めています。そして、「D」の第一義はDSR経営の「D」ですが、第一生命グループ独自の価値創造経営であるDSR経営を実践していく、という思いを込めています。

この「Action D」と重なるこれからの3年間は、私たちにとって「盛衰の分水嶺」になります。昨年末の政権交代を機に株価が上昇するなど、経済環境は「逆風」から「順風」へと変わりつつあります。第一生命グループでは、この「順風」への流れを先取りし、「Action D」の開始に合わせてスタートダッシュに取り組んでいます。必ずやスタートダッシュを成功させ、「盛衰の分水嶺」を乗り越えて、更なる飛躍に挑戦していきましょう。

さて、第一生命グループには「人間力こそが、競争力の原点である」という考えが根付いており、人を会社の財産と捉えて「人財」と表記しています。そして、この大切な「人財」を育てていくために「プロフェッショナル&チームワーク」をキーワードとしています。

第一生命グループにおける「プロフェッショナル」とは、専門性を身につけることだけではなく、プロとしての自覚や拘りを持つことを意味します。「チームワーク」もチームや組織の内部での協力だけではなく、部門などの垣根を超えて協力することを意味します。

皆さん一人ひとりが性別、価値観、ライフスタイル、国籍の違いといった個性を活かして「プロフェッショナル」となり、垣根を超えて「チームワーク力」を発揮して、新たな価値を創造し、成長戦略を実現していただきたいと思います。これが私たちの目指している「ダイバーシティ&インクルージョン」の実現でもあります。

第一生命グループにおいても、日本全体においても、成長戦略の実現は若者自らの手によって成し得るものです。「逆風」から「順風」に変わるのを待つのではなく、皆さんが爽やかな「順風」を吹かせるような大活躍を期待し、歓迎の言葉といたします。

以上

※実践躬行(じっせんきゅうこう):「実践」とは理念・ビジョン・理論をそのとおりに行うこと。
「躬行」とは躬(みづか)ら実行すること。